

モーニングセミナー 5 【MS5】

日時：2026年4月11日(土) 7:45~8:45

会場：Room 1 メインホール(福岡国際会議場)

4月11日(土)

Santen

緑内障治療の新潮流

—セパタプロストの可能性—

座長

中澤 徹 先生(東北大学)



現在、緑内障に対するエビデンスに基づいた唯一確実な治療法は眼圧下降^{*1}であり、患者さんの生涯にわたる視機能維持を見据えた治療戦略が求められています。

昨今では、配合剤を中心とした様々な治療薬やMIGS等の選択肢は増えてきましたが、いまだに日本においては緑内障が中途失明原因の第1位^{*2}とされています。

そんな中で、セパタプロストはFP受容体とEP3受容体に作用する二環式プロスタグランジン誘導体であり、発売から約6か月が経過し臨床現場でも使用されるようになってきました。

今回、まずは稲谷先生から、セパタプロストの臨床成績、実臨床での使用経験を踏まえた本剤の可能性についてご講演いただきます。続く柏木先生からは、そんなセパタプロストの基礎研究をベースにFP受容体とEP3受容体の両方に作用することによる可能性について、また、中元先生からは、緑内障の進行リスクを踏まえた治療選択の新たな可能性についてご講演いただきます。

本セミナーでは、基礎から臨床まで、セパタプロストが緑内障治療にもたらす価値を多角的にご講演いただきます。セパタプロストの実臨床における経験を踏まえた講演および議論を通して、皆様の診療にお役立ていただければ幸いです。

※1: 緑内障診療ガイドライン(第5版)

※2: MatobaR, et al. Jpn J Ophthalmol 2023; 67: 346-352

演者 1

臨床成績から見る
セパタプロストの可能性稲谷 大 先生
(福井大学)

演者 2

FP&EP3受容体への
作用がもたらす可能性柏木 賢治 先生
(山梨大学)

演者 3

緑内障進行リスクを
踏まえた治療選択の
可能性中元 兼二 先生
(日本医科大学)

共催：参天製薬株式会社